

須坂市つながる支援プロジェクト

「人と人、人と地域、人と社会をつなぐ」

～須坂市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業～

2025年7月29日

須坂市福祉課

2022年度

- 「地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム事業」に係る取組団体として全国29団体の1団体として採択

★須坂市が取り組んだ事業

- ① 須坂市孤独・孤立の実態把握に関する調査を実施
- ② 孤独・孤立対策に関する支援体制、地域資源に関するマップ(シート)の作成
- ③ 孤独・孤立対策に関する協議体(プラットフォーム)の形成

I - ① 須坂市孤独・孤立の実態把握に関する調査

■調査対象者: 須坂市在住の16歳以上の2,000人を無作為抽出

■調査期間: 2023年1月6日~1月20日

■調査方法: 回答は郵送とWebアンケート併用

■回収状況: 799サンプル ■有効回収率: 40.0%

	男性	女性	その他	無回答	合計
16~19歳	8	9	1	0	18
20代	9	20	1	0	30
30代	31	20	1	0	66
40代	41	39	1	0	81
50代	64	70	0	0	134
60代	75	60	2	1	138
70代	93	112	0	1	206
80代以上	42	68	0	0	110
無回答	6	5	0	5	16
合計	369	417	6	7	799

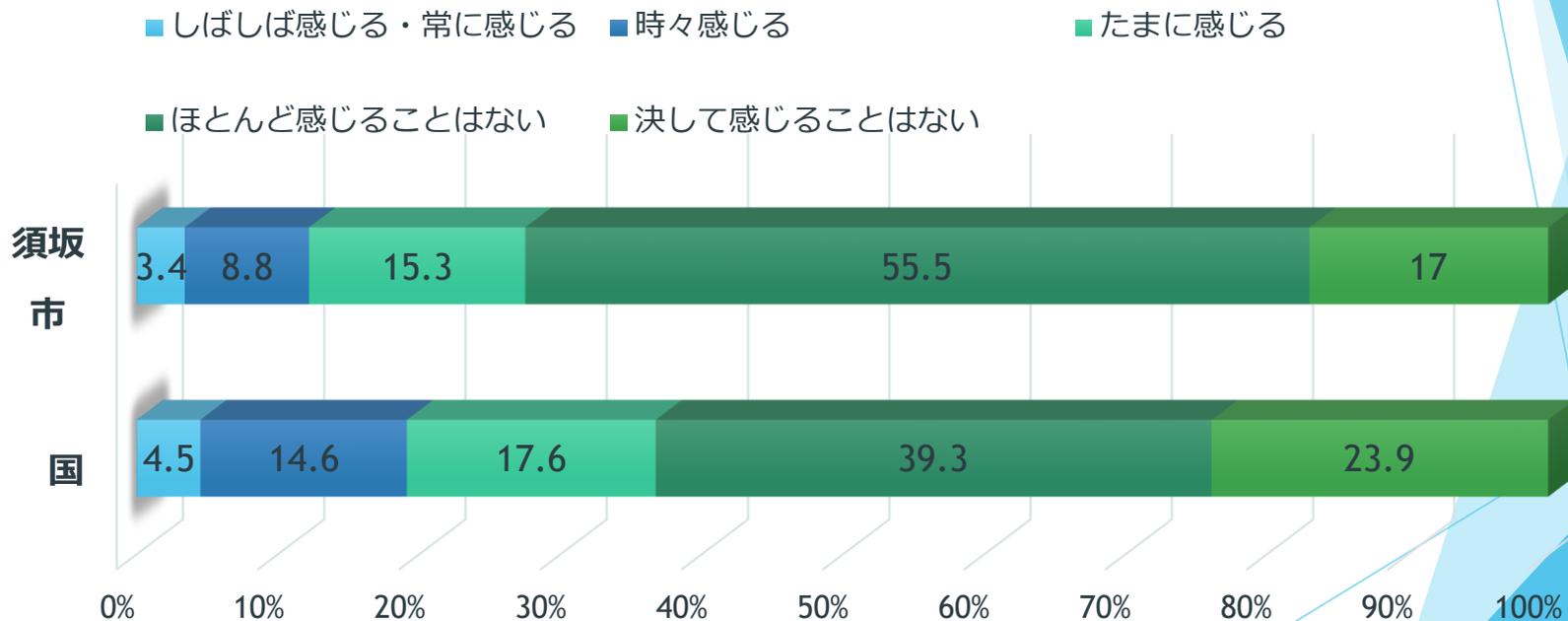
● 「常時、孤独を感じている人」は市民の3.4%と推計。

(16歳以上人口の約1,500人) 推計43,422人(16歳以上人口) \times 0.034=1,476人

● 国、他地域に比べると孤独状態にある人の割合は低い。

質問「あなたは、孤独であると感じることがありますか？」

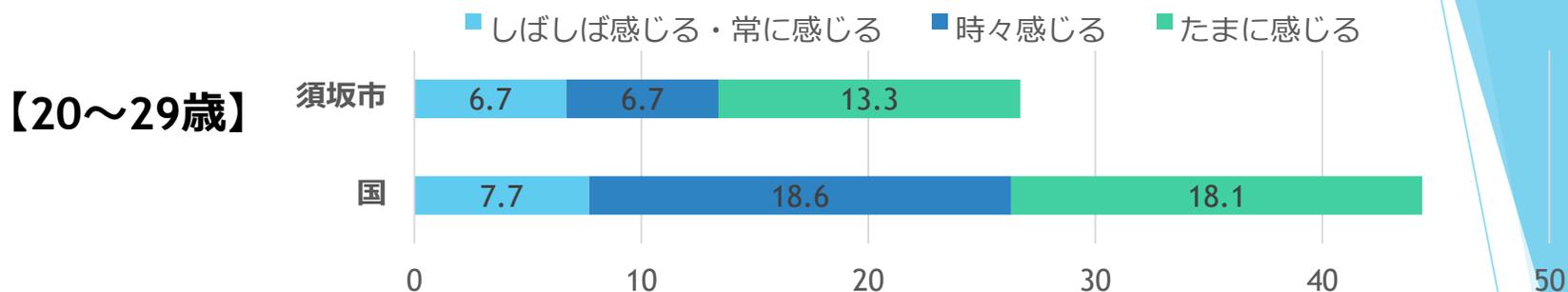
国と須坂市との比較



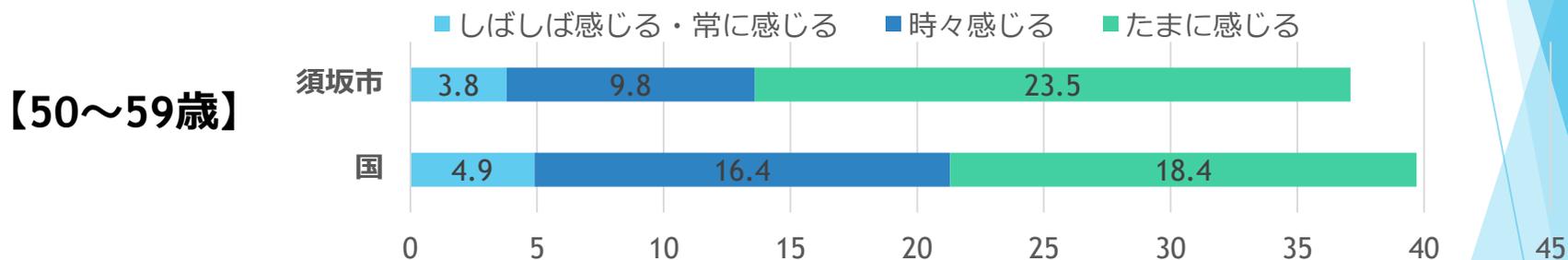
■ 国に比べ、孤独感を感じている人の割合は少ない。

■ 国との比較(年代別)

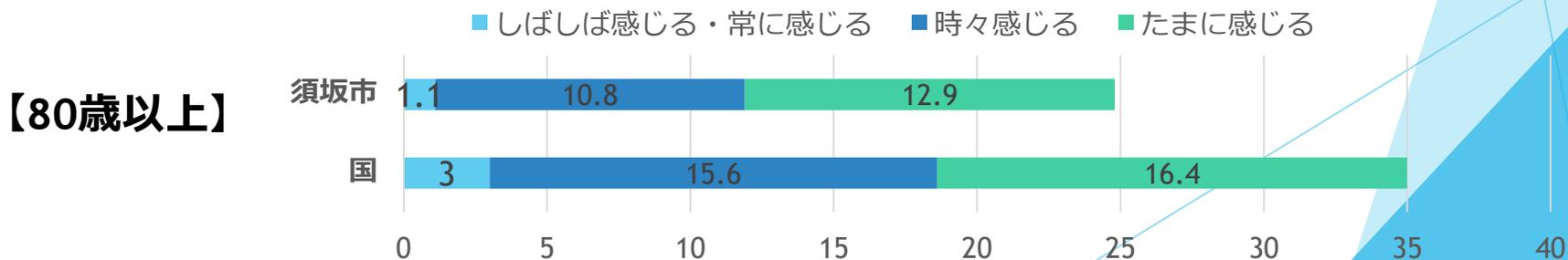
◆ 若い世代20代の孤独感を感じる割合は須坂市では低い。



◆ 中年層(30～50代)の孤独感を感じる割合が、国より低いが市全体平均より高い。



◆ 高齢層(60～80歳以上)での孤独層の割合も低い。



■ 孤独感が強い層の特徴

【基本属性】

- 30～50代の中年層⇒全体平均よりも高い傾向。
- 女性⇒男性よりも「取り残されている」「孤立している」と感じてる人がやや多い。
- 性別「その他」⇒全サンプルの1%に満たないわずか6人だが、性的マイノリティーと思われる全員が孤独を感じている。

【地域性 ・居住年数】

- 東部・西部・旭ヶ丘地区⇒全体よりも孤独層が多い。
- 居住年数が短い⇒孤独であると感じる人がやや多い。

【家族構成】

- 未婚者と離別者⇒配偶者あり、死別よりも孤独感が強い。
- 独居者⇒同居家族がいる層に比べ、直接質問の孤独感は2倍の差がある。
- 世話や介護を必要とする家族がいる⇒いない層より総じて孤独感が高い。

【就労・ 経済状態】

- 生活困窮者⇒間接・直接質問ともに孤独感が強い。

【健康状態】

- 健康状態が「良くない」⇒直接の孤独感は「良い」人の3倍近い。

【外出行動】

- 趣味・生きがいがない⇒ある層よりも総じて孤独感が高い。
- 外出しない・週に1日未満⇒人づきあい指標での差が大きい。
- 行動範囲が自室・自宅のみ⇒孤独感が総じて高い。
- 移動手段がない⇒孤独感が総じて高い。

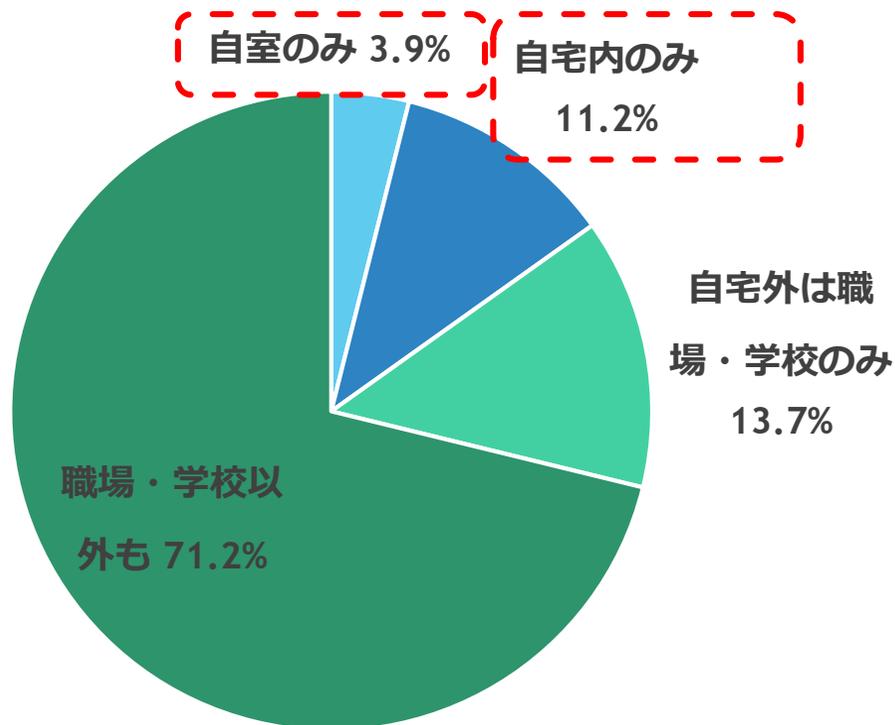
【人づきあい】

- 交流活動に参加していない⇒人づきあい指標での差が大きい。
- 相談相手がいない⇒いる人に比べ孤独感が2倍程度。

- 7
- 自宅から出ない引きこもり傾向のある人は市民の15.1%程度(推計約6,500人)と推計される。特に80代以上の高齢者でその傾向が強い。

推計 43,422人(16歳以上人口)×0.151=6,557人

最近1週間の行動範囲(全体)



- 最近1週間での引きこもりと考えられる人は15.1%(自室から出ない人3.9%、自宅から出ない人11.2%)
- 性・年代別にみると、男女ともに80代以上の高齢層で自宅から出ない人の比率が全体より高い。
- 最近1週間の行動範囲が自室・自宅内のみと回答した方
・全体の67.3%が70歳以上の高齢者

■ 「ひきこもり」の定義 (厚生労働省)

様々な要因の結果として、社会的参加を回避し、原則的には**6カ月以上**にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念。

●相談窓口の認知度が総じて低いが、相談窓口により認知度の若干の差がある。

相談窓口の利用・認知状況（抜粋）

相談内容	相談窓口	実際に利用 したことがある	相談できるこ とを知ってい る等	知らない
こころやからだに 関する相談	保健センターでの 「こころの相談」	2. 4%	51. 3%	46. 3%
高齢者に関する相談	地域包括支援 センター	9. 6%	53. 6%	36. 8%
生活にお困りの方の 相談	まいさぽ須坂	0. 6%	33. 3%	66. 1%
成年後見支援制度の 相談	須高地域成年後見 支援センター	0. 1%	26. 1%	73. 7%
多重債務・消費生活 トラブル等の相談	消費生活・特殊詐 欺被害防止セン ター	1. 3%	49. 3%	49. 3%

【相談窓口があることに効果的な周知】

- 相談窓口が充実しているのをはじめて知った。もっと周知すべき、情報が少なすぎる。
- 相談先の一覧表や冊子がほしい。

【相談の仕組みの構築】

- 窓口は一つの方がわかりやすい/インフォメーションセンターがあるとよい。
- 体系的な支援体制を構築してほしい。
- 総合相談窓口で受け付け、その後各専門機関やサービスにつなげるとよい。 24時間の受付

【アウトリーチなどの体制づくり】

- 外出が無理な人には家庭訪問のように来てくれる対応があるとよい。
- まずは経済的な支援を受けられ不安をなくした状態で相談できる体制

【相談員の質の向上・対応力】

- 相談員の質(視野の広さ、経験豊富、誠実な人柄、資格を持っている、守秘義務・・・など)
- ただ話を聞くだけでなく、解決につながる機関へつなげられる対応ができること解決策よりも選択肢を提案してほしい。

【対面せずに相談できるシステム】

- 自分をまったく知らない人に相談したい。
- 人と直接会わずに済むメールや、LINEやAI、チャットなどICT技術を用いた相談システム

【日常的なつながりづくり】

- 広報須坂やHPも必要だが、もっと「顔の見える化」が必要/普段からのおつきあいが重要

●調査からみえてきた課題

- 支援が必要性の高い孤独層(しばしば・常に)は市民の3.4%程度
- 孤独・孤立の状況は複合的な要因が考えられる
⇒未婚・離別・独居である、生活が困窮している、健康状態がよくない、高齢で外出できない、生きがいや趣味がない、子育てや介護する家族を抱えて孤立している、移動手段がない、障がいを持っている、性的マイノリティである、・・・
- 孤独・孤立の状況にある人は身近なつながりや社会的な接点、日常的なコミュニケーションが乏しい
- 支援を必要としていても相談・支援を受けない人がいる
⇒現在の社会や他人とのかかわり方に不満を持ち、相談・支援や人とのつながりを希望している
⇒しかし、相談しても無駄と無力感を感じている人も少なくない
- 相談・支援先を知らない人がきわめて多い
- 自宅から出ない引きこもり傾向も強いいため、アウトリーチが必要な層といえる

●関係課ヒアリングからみえてきた重点テーマ

① **顕在層の支援** ⇒担当課と関係機関との連携はほぼできているが、民間との連携は弱い。
民間団体等も含めた連携の可能性を探り、横断的・重層的な支援につなげる

② **相談したい人の支援強化** ⇒まずできるのは相談窓口の見える化・効果的な周知の徹底

③ **潜在層の発見・アウトリーチ策の検討**

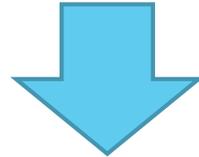
- ⇒制度(介護保険、障がい福祉、生活保護など)でつながっていない層にアプローチできる仕組みづくり
- ⇒子どもを通じた課題のある家庭・支援すべき保護者の把握・支援の強化
- ⇒庁内的に十分対応できていない新しい孤独層(犯罪被害者、LGBTQ)への対策

④ **孤独・孤立予防となる地域づくり**

- ⇒ソーシャルキャピタルの強みの強みを活かす/モデル的な地域活動(旭ヶ丘地区)の横展開・拡大

I - ② 孤独・孤立対策に関する支援体制、地域資源に関するマップ (シート)の作成

●委託先のNPO法人SCOPが庁内関係課職員からヒアリングを実施
(2023年2月17日)



1. 対応すべき孤立・孤独問題の課題・見えているニーズ

- ・ 独居高齢者の増加、サービスを利用していない障がい者、発達障がいなど支援を必要としている子供の増加等

2. 顕在化しているケースへの連携対応

- ・ ひきこもり対策部会での関係課、団体との連携、民生委員の独居高齢者宅への訪問等

3. 潜在ケースへの対応

- ・ 包括による75歳の全員訪問実態把握等

4. 孤独・孤立になりにくい地域社会づくり

(居場所づくり、リーダー育成、ピアサポート(仲間同士の支えあい)等)

- ・ 地区で運営するサロン、旭ヶ丘地区住民による生活支援、不登校の子供が通えるフリースクール等

I - ③ 孤独・孤立対策に関する協議体(プラットフォーム)の形成

■ 須坂市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム協議会の設置

委員⇒市社協、まいさぽ須坂、総合支援センター、民生児童委員、民間事業者、人権擁護員、庁内関係課職員



● 第1回会議の開催(2023年2月27日)

- ・実態把握に調査と結果等について説明
- ・意見交換(調査結果、現場の実態などから)

(委員からの主な意見等)

- 潜在層の発見・アウトリーチ策の検討、ひきこもりの人にどういふふうにあぷろーちするか難しい。できることを既存の事業と合わせて考えていきたい。
- 「いきいきすざかっ子子育て電話帳」について、小中学校に入学する家庭に配布しているが、あつて非常に良かった。大変ありかたかつたという声を聞いた。
- ネットで何でも調べられるが、直接、資料を見せたりすることも大事。
- よろずなんでも相談というものをやつてはいるが、周知があうまくできていない。
- 子供が相談する窓口というのは市では用意してない。県や国の窓口を紹介するが果たしてそれでいいのか。
- 協議会のメンバーには若いメンバーも入つたほうがいい。固定しない。

趣旨

近時における社会の変化を踏まえ、日常生活若しくは社会生活において孤独を覚えることにより、又は社会から孤立していることにより心身に有害な影響を受けている状態にある者への支援等に関する取組について、その基本理念、国等の責務、施策の基本となる事項及び孤独・孤立対策推進本部の設置等について定める。

⇒『**孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会**』、『**相互に支えあい、人と人との「つながり」が生まれる社会**』を目指す。

基本理念

孤独・孤立対策について、次の事項を基本理念とする。

- ① 孤独・孤立の状態は人生のあらゆる段階において何人も生じ得るものであり、社会のあらゆる分野において孤独・孤立対策の推進を図ることが重要であること。
- ② 孤独・孤立の状態にある者及びその家族等の立場に立って、当事者間の状況に応じた支援が継続的に行われること。
- ③ 当事者等に対しては、その意向に沿って当事者間等が社会及び他者との関わりをもつことにより孤独・孤立の状態から脱却して日常生活及び社会生活を円滑に営むことができるようになることを目標として、必要な支援が行われること。

地方公共団体の責務

地方公共団体は、基本理念にのっとり、孤独・孤立対策に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、その区域内における当事者間等の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有すること。

1. 「相談窓口」の周知・PR

- ① 「こころといのちの相談窓口一覧」(2023年8月全戸配布)
 - ・「こころ・法律・仕事のなんでも相談会」チラシの裏面
- ② LINEを使った情報発信
 - ・LINE 全世代92.5%(60代を除き全世代で90%以上)
 - ・約360,000人が友達登録
 - ※2023年12月から約350回の利用がありました。



2.「福祉まるごと相談窓口」の仕組みづくり

- ・住民からの担当以外の困りごとについても、市の各課、社会福祉協議会等のそれぞれの窓口で話をお聞きし、意識してしっかり受け止め、特定の窓口で丸抱えするものでなく、関係部署につなぎ、専門機関と連携協力して、適切な支援に結び付けていく。

★具体的な取組み（例）

- ① 市役所関係課、まいさぽ須坂などの窓口カウンターに「福祉まるごと相談窓口」の小旗を設置
⇒来庁した住民への周知。住民からの相談を一度、受け止める職員の意識づけ
- ② 窓口職員向けweb研修の開催
⇒どの窓口でどのような相談を受けている把握し、担当外の業務について住民からの相談を受けた場合、話を聞いて適切な窓口“つなぐ”意識づけ



1.市内の「居場所」の把握、マップ化

- ① 「居場所」のマップ化は「イケてる須坂MAP〈S〉」
- ① 「イケてる須坂MAP」への掲載費用を2025年度に予算要求することをPF会議で確認。(2024年7月 PF会議)
- ② 2025年度予算計上、
社会参加活躍支援等孤独・孤立対策推進交付金(内閣府)が決定 (2025年4月)
- ③ 現在、マップ掲載候補の収集中(本日報告)
 - ・子どもの居場所(フリースクール等)、高齢者の居場所(サロン)などの把握
 - ・第3の居場所・・・フリースクール、高校生の学習スペースCOTO²
- ④ 居場所のマップ化を事業者へ依頼(「イケてる須坂MAP」への掲載)

IV 今年度のスケジュール(案)

1. 第1回須坂市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進協議会の開催

- ・居場所マップについて
- ・講演「教育支援センターの活動と、就労支援事業との連携について」

2. 第2回須坂市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進協議会の開催

(11月予定)

- ・講演「(外部講師を検討中)」